入間市納税貯蓄組合長賞

税金による医療のありがたみと将来の夢

向原中学校　三年　輿水　詩織

将来の夢は看護師です。

私は北海道根室市で生まれ、六歳のとき入間市に引っ越して来ました。根室市は北海道の東の端にあり、とても寒く乾燥している日が多く、すぐに風邪を引いては病院に行く、というのを毎月のように繰り返していました。今でも忘れられない記憶は、高熱を出して点滴をしたとき看護師さんが優しく声を掛け、励ましてくれたことでした。そのとき私はとても安心したことが心に残っています。

小学校高学年になったある日、病院に行き診療を終え帰りにお金を払ってこないことに気づき、今までは全く気にしていませんでしたが、こんなことを父に尋ねました。

「私が病院に行ったとき、なんでお金を払わないの？」

これに対して父はこう言いました。

「市から費用が出ているんだよ。」

私はこれを聞いたとき、どういうことなのかよく分かりませんでした。家に帰って詳しく聞いてみると、お金は税金だということが分かりました。父の話を聞いてから税金に対する私の見方が変わり、税金は私たちにとってとても大切なものなんだと思うようになりました。私は、今までの税金がどんなものか知らずにいましたが、自分で調べるといろいろなものに税金が使われており、税金が私たち

の生活を支えていることを知り、税金の重要性を認識しました。そして、医療費の他にも私たちが毎日学校に行けるのも、教科書を使って学習できること、道路を作ったり警察に治安を守っていただいたりと、税金によって助けてもらっていることについて知ることができました。

冒頭でもいったように、私は熱を出しては病院に行き優しくしてもらった、この経験をきっかけに、子供の医療費の免除に加え精神的に辛い思いをしている子供に寄り添える優しい看護師になりたいと思うようになりました。税金は私に将来の夢を与えてくれました。

この税金制度が無かったら、大事な救える命が救えず、子供達は学校にも行けず、日本の治安は悪くなり国民の生活は負の連鎖に陥り成り立たなくなってしまいます。税金制度があり、父や母が納税をしてくれることにありがたく思うとともに、私は将来看護師となり、私も納税をし、一国民として恩返しをしたいと思います。